

民家園の古民家を 支える「炉端の会」



▲ 50周年を迎えた日本民家園
今年50周年を迎えた川崎市立日本民家園(以降「民家園」と略します)を支えている炉端の会(以降「同会」と略します)を紹介します。同会は、「民家園の諸活動にボランティアとして協力すること」を目的に1994(H6)年8月に発足しました。

民家園の「縁の下の力持ち」

炉端の会の会員には、伊勢原市や横須賀市から民家園に通っている方たちもいます。旅費は自費でまかない、すべて無報酬で活動しています。大学生から卒寿までの幅広い年齢層の方々が活動しており、会員数は約260名(H29年6月現在)です。

年間を通した主な活動は、各棟や周辺の清掃、囲炉裏やかまどの火焚き、民家園内のガイド(定時ガイド・希望者へのガイド)や来園者へのおもてなし等です。

また、会員は任意に、園内の「環境整備」「障子張り」「展示」「英語ガイド」「フリーガイド」「広報」「草バツタ」等の活動チームに所属し、古民家を保全維持する補助活動も行っています。さらに、民家園が主催する各種行事への協力や支援も多岐にわたっており、「お正月を遊ぶ」「民家園まつり」「夜の民家園」「生田緑地サマーミュージアム」「お月見をしよう」「むかし話」等に、積極的に協力しています。

古民家の保全維持にたいせつな火焚き



▲ 囲炉裏で談笑する会員のみなさん

同会は、囲炉裏での火焚きを通して来園者と語り、古民家の魅力を伝えています。

会員が月2回の割合で分担して行っている囲炉裏やかまどの火焚きは、民家園にある多くの古民家を虫害や湿気から守るために欠かすことができず、民家園の保全維持管理には大きな役割を担っています。

火焚きを公開する古民家の棟数は、会員の参集状況によって変わりますが毎日2棟～5棟を公開しているそうです。

古民家を後世に伝えるための保存活動や来園者への対応等、様々なボランティア活動の功績がたたえられ、2014(H26)年11月10日、川崎市文化賞を受賞しています。

古民家で過ごすゆっくり流れる時間 昔の人の知恵を学ぶ

6月24日、民家園の原家の2階で、会長の水野鉄夫さん、広報の広瀬民雄さん、民家園の柳隆泰さんから、同会の活動について、お話を伺いました。「古民家の住民だった人と時間は



▲ 水野鉄夫さん

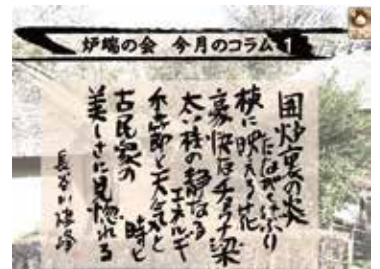
共有できませんが、空間は共有することができます。300年前の大工の棟梁が削った柱に寄りかかって、当時の人たちの生活に思いを馳せると、建物や道具等から昔の人の知恵を学ぶことができます。」という水野さんの言葉から、古民家でしか味わうことのできな

い貴重な時間をととても大切にしていることが分かります。

広瀬さんは、「何回も来園され、火焚き棟で会員からその家の説明を聞くと、個々の家の違いが分かり、より興味を持っていただけます。また囲炉裏で火焚きを見ていると心が安らぎます。」と話されていました。

活動を紹介する同会のホームページ

広瀬さんの担当する同会のホームページには、炉端活動の一日、「炉端の会」のひとり言、トピックス、会員の投稿、日本民家園花便り等のページがあり、同会の活動の様子を楽しく、そして詳しく知ることができます。



▲ 会員が投稿するコラムのページ

民家園の柳さんは、「炉端の会の会員のみなさんのおかげで、古民家を良好に維持管理でき来園者の皆様に充実したサービスを行うことができます。」と話します。

同会の概要について話を聞いた後、鈴木家、山田家の囲炉裏の火焚きを実際に見学し、古民家の床上で話を聴くことができました。

会員の柴田さんからは棕櫚(シュロ)の葉で作った「草バツタ」を、お土産でいただきました。



棕櫚(シュロ)の葉でつくる草バツタ▶